

1. はじめに

私は自身の過去の経験から消化器内科の医師を志しており、2025 年 3 月 31 日から 4 月 30 日まで、ベルギーのルーヴェン・カトリック大学病院（UZLeuven）に短期留学を行いました。この留学を通じて、現地の方々との交流を深める中で、埼玉県の文化や観光地を紹介し、国際的な理解と友好を深める活動を行うことができました。

2. ルーヴェンでの生活と人々

ルーヴェンは、ブリュッセルから電車で約 25 分の距離にある学生都市で、世界最古のカトリック大学である KU Leuven を中心に発展しています。街はコンパクトで治安も非常に良く、学生や研究者にとって非常に住みやすい環境です。市庁舎や聖ピーターズ教会などの歴史的建造物が点在し、石畳の街並みが中世の雰囲気を醸し出しています。また、オウデマルクト広場には多くのカフェやレストランが立ち並び、学生たちの憩いの場となっています。ベルギーの人々は控えめで親切な方が多く、特に春の穏やかな気候の中での交流は心温まるものでした。私は今回初めて海外に留学したので、不安と緊張でいっぱいでしたが、優しい先生方や学生に囲まれ、充実した 1 か月を過ごすことができました。

特に、留学中は腫瘍内科の教授である Sabine Tejpar 先生ご夫妻に大変お世話になりました。ご夫妻は日本を何度も訪れており、日本文化への造詣が深く、埼玉県についても関心を持ってくださいました。

3. 埼玉県文化と観光地の紹介

先ほどの教授との交流の中で、私は埼玉県自然や伝統文化についてご紹介しました。私は埼玉県自然が好きで長瀨や秩父をよく訪れているので、実際に私が過去に訪れた時の写真を用いていくつかの観光地について説明させていただきました。長瀨や秩父の美しい自然景観、特に長瀨のライン下りや秩父の芝桜の丘は、四季折々の風景が楽しめるとして好評でした。また、私が実際に親戚から贈られた岩槻の節句人形についても説明し、日本の伝統工芸の繊細さや美しさを伝えることができました。

これらの紹介を通じて、先生ご夫妻をはじめとする現地の方々に埼玉県への興味を持っていただき、将来的な訪問を検討していただけるようになり、非常に嬉しかったです。

また、研究室訪問中も博士課程の学生と交流し、いただいた資料を用いて PR させていただきました。多くの方が埼玉について初めて聞いたとのことでしたが、関心を持ってくださったことが印象に残っています。



KU Leuven library



埼玉県の PR 資料とともに



4. 研究活動と国際交流

機能性消化管疾患に関するガイドラインを作成した教授のもとで、1 か月間、研究室見学と、臨床実習をさせていただきました。研究活動、実習を通じて疾患と研究についての理解を深めました。ベルギー全体としては三つの公用語がありますが、ルーヴェンはオランダ語圏であり、医師の先生方がお忙しい中、私のために英語に翻訳していただくことが多く、先生方のお心遣いには感謝の気持ちでいっぱいでした。また、オランダ語だけでなく、英語、フランス語、ドイツ語も流暢に話す先生方が多く、語学力の高さに圧倒されました。そのため、先生方が時間を割いて英語で説明してくださることに応えるためにも、また短い時間で自分の言いたいことを伝えられるように、毎日英語のニュースを聞き、なるべく自分から積極的に話す機会を作り、少しでも語学力を高めようと努力しました。最初はなかなか上手くスピードについていけずもどかしい思いをしましたが、その甲斐あってか、最後に教授に英語力を褒めていただいていたことを聞いたときには本当に嬉しかったです。

5. おわりに

ベルギー・ルーヴェンでの留学生活は、医学的な学びに加え、国際的な交流を通じて私が生まれ育った埼玉県の魅力を発信する貴重な機会となりました。今後は今回の経験を医師としての歩みに活かすと共に、引き続き埼玉県の魅力を国内外に伝える活動を続けていきたいと思っています。